

## 草原の保全活動と湿地の再生活動

新庄村は、岡山三大河川の1つ旭川の源流域で、中国地方でも最大級と言われるブナ林を有する毛無山（大山隠岐国立公園特別保護地区）をはじめ、村内全域で生物多様性の豊かな自然環境が広がっています。国指定特別天然記念物のオオサンショウウオ、県の絶滅危惧種に指定されているオキナグサ（Ⅰ類）やオオナンバンギセル（Ⅱ類）、準絶滅危惧種のヒメシジミ、ハンゴンソウなど次世代に残していきたい希少種がひっそりと生息しています。

森に囲まれ、水田と採草地が広がる風景は、まさに里山の原風景そのものでした。牛を放牧したり、餌用の草刈りをしたり、茅葺用にススキを刈ったりするなど、暮らしと自然には密接な関わりがありました。ところが、近年ではライフスタイルの変化とともに自然との共生関係が薄れ、結果、草原や湿地が消えつつあります。生息環境の危機的変化に加えての採集圧で、数が少なくなってしまった動植物を守るため、「新庄自然保護連絡協議会」と新庄村が連携し、草地・湿地の保護活動を重点的に取り組んでいます。多様な動植物の命を育てていたかつての環境を復元したいという願いで、草刈り・草寄せ作業を続けています。四季折々に観察会も行っています。

今までの活動が実り、湿地のあちらこちらでハンカイソウなど湿性植物が花開かせているのを目の当たりにしたときには、みんなで声を上げました。チダケサシ、ヌマトラノオ、アカバナ、ノハナショウブが広がっていくのを見るにつけ、しんどく地道な作業の疲れもどこかへ吹き飛びます。

活動している全ての場所に共通していることがあります。かつてその地には、ウスイロヒョウモンモドキが舞っていました。環境省が指定している「種の保存法」指定生物種で、保全活動のシンボリック的存在です。2021年に新庄村が「特別保護地区」として指定した国立公園内の保護活動エリアは、ウスイロヒョウモンモドキの保護のため教育委員会が主導する形で保全活動が始まり、かろうじて草原が維持されてきました。ウスイロヒョウモンモドキの食草のオミナエシやカノコソウ、吸蜜植物のオカトラノオ、また草原性の希少種など、この地でこれからも豊かな生態系を維持できるよう、専門家と合同で調査を行い、保護増殖計画を練っています。人との関わりの中で、維持され、独特の生態系を作っている草原や湿地の保護について、これからも学びと活動を続けていきたいと思っています。

主な活動主体	新庄自然保護連絡協議会、新庄村
保護動植物の位置付け	<p>環境省レッドリスト 2020 :</p> <p>絶滅危惧ⅠA類…ウスイロヒョウモンモドキ</p> <p>絶滅危惧Ⅱ類 …オキナグサ</p> <p>種の保存法：国内希少野生動植物種（H28年指定）…ウスイロヒョウモンモドキ</p>
活動状況（写真提供：新庄自然保護連絡協議会）	
	